

# 水稲育苗ハウスの未利用期間を有効活用した 簡易養液栽培システムによるパプリカ栽培

福島県農業総合センター 浜地域研究所

## 1 部門名

野菜—パプリカ—栽培

## 2 担当者名

三好博子

## 3 要旨

水稲育苗ハウスの未利用期間を有効活用した簡易養液栽培システムによるパプリカ栽培を安定的に行えるよう、肥培管理や仕立て本数等の試験を実施した（図1）。その結果、5月下旬に定植すると、8月上旬～11月下旬まで収穫し約4t/10aの収量を得ることができた。

(1) 栽培方法は、パイプハウス内に150cm×50cm間隔に装置を配置した場合、仕立て本数を3本仕立てとすると収量性に優れる（表1）。

(2) 生育初期に樹勢が強くなると奇形果が多発するため、液肥濃度は第3花開花期までEC0.5mS/cm程度とし、生育最盛期には、EC1.0mS/cm程度とする。給液方法は1回あたり約80ml/株を1日（6:30～16:30）21回、30分間隔で給液する。

表1 パプリカの収量(2022年)

	着果率 (%)	1果重 (g)	総収量 (g/株)	総収量 (個/株)	可販果率 (%)
2本仕立て	56.1	139.3	2809.8	20.1	84.0
3本仕立て	51.8	128.6	3234.8	24.9	84.0

注1) 着果率は、着果数/総節数 × 100

注2) 可販果率は、可販果数/収穫果数×100とし、可販果は極端な変形や日焼けがなく、100g以上の果実とした。



図1 簡易養液栽培の様子

<耕種概要（2022年）>

栽培装置：JA全農式トロ箱養液栽培システム（ういずOne）

供試品種：「スペシャル」

定植：5月24日 収穫：8月8日～11月21日

栽培管理：第4花から着果させ、8月30日に摘芯。

<「ういずOne」設備投資額の目安>

パイプハウス2aに172箱の栽培槽と自動灌水装置を設置すると、設置工事費も含めて初年度支出が約94万円となり、3～5年程度使用が可能である。この他に毎年栽培にかかる費用（種苗費、肥料費、農薬費等）が必要になる。

## 4 成果を得た課題名

(1) 研究期間 平成27～令和7年度

(2) 研究課題名 安全で効率的な新農薬・新資材等の実用化

## 5 主な参考文献・資料

なし